

それで許せる氣になれますか。

○ それはいけません。

香 それならあなたの前の答へも、あなたより下級のくらしの人に對して、おかしくなりはしませんか。

○ けれども私等は最低です。

香 するとその最低でないことを證明されたときにはどうなります。あなたより少い収入と、まづい食事と、粗末なベッドより與へられない人があつたら、素直に地位をあげ渡さなさいませぬか。

○ .....

香 おひつめる様な話になつてすみませぬが、一燈園はまづ自分らから、あけ渡してゆきたいのです。今の理屈でおひつめられても、はつきり事實で答へられるやうに。それが「捨て身」の生活となり、無一物となり、托鉢となつてきたのです。

○ そふして資本家を少しも責めぬのは、どうしたわけです。

香 どちらもせめはしないのです。けれども自分を完全に懺悔の事實に近づらせてゆくうちに、

いつのまにやら同じ様に反省していつて呉れるのです。

○ 何程懺悔したとて、彼等は自分が所有して居るので、少しも解放をしないでありませんか。

香 かも知れませぬ。けれども、兎に角自分達が完全に、無一物迄解放してから、他にいふべきでないでしよふか。今一つ困つたことは、解放されたとして、その何物でも、それをありためて預る人、または社會、國家などが、もし理想的のものでなかつたら、矢張同じ事情が残ることです。

○ .....しかし、とにかく、今現にこんなに虐待されてゐては困ります。一度私等の大部屋を見て下さい。

香 ありがたふ。よせてもらひます。

丁度晝飯時分であつたので、もらうてきた鹽昆布の瓶を持つて、ボーイさんの室にゆく。非番のボーイさん方の食事をされる卓子の上で、私はシャツなりで茶漬をたべた。久し振りに非常にうまい。かないは洗ひものをさせて貰ふ。大部屋中は珍客として愛してくれた。非常に虐待々々ときかされたが、一燈園に比べては結構であつた。